

学校名 ちばけんかとりくんとうのしょうちょうりつきさがわしょうがっこう **千葉県香取郡東庄町立笹川小学校** 校長名 みやおい ふみお 宮 富美夫
 所在地 〒289-0601 千葉県香取郡東庄町笹川い4713
 TEL 0478-86-0014
 FAX 0478-86-3991
 E-mail s-edu@town.tohnosho.chiba.jp

1. 研究主題

「運動に親しみ、健康を考える子供を
育てる体育学習のあり方」
個に応じた支援の工夫を通して

2. 研究の期間

平成17年度～平成22年度 6年間(継続)

3. 研究の目的

学習指導要領の理念である「生きる力」を育成
するための体育科における目指す方向性として、
生涯体育
健康の保持増進と体力の向上
課題解決学習
個に応じた指導と創意工夫された特色ある
授業
中学年からの保健学習

などがあげられ、学校体育の意義や役割をもう一
度見直すことの必要性が指摘されている。また、
児童の体力・運動能力の慢性的低下も大変重要な
問題となっている。

このような、課題や問題点については本校にお
いても同様で、児童の新体力テストの結果を見る
と、県平均を下回っている種目が半数近くあり、
決して高いレベルとは言えない。運動経験や運動
習慣の差が、この結果につながっているとも言え
る。また、「運動する子」、「運動しない子」の二
極化の傾向もかなり進んできている様子がうか
がえる。

保健領域においては、健康や安全について知識
として理解していることは多いが、それを自分の
問題として捉え、解決しようという意識はあまり
高いとは言えない。

そこで、本校では児童の意欲を高めながら生涯
体育の基礎となる「運動に親しみ、健康を考える」
態度や能力を育成するための手だてとして、児童
一人一人に応じた支援の仕方を、実践を通して明
らかにする研究に取り組んでいる。

4. 研究の方法・実践内容

1年目(平成17年度)

a 研究推進委員会・全体研修会

研究主題についての理論研修

「学校教育目標」と「運動に親しむ子の姿」、

「健康を考える子の姿」との関係性を明らかにし、
研究主題についての考えを深めた。

b 教科体育部会

指導案検討、校内研究会を行い、実践を通
して成果と課題を明らかにした。

c 教科外体育部会

これまでの成果や課題から、新たな計画を
立案した。

2年目(平成18年度)

～1年目(平成17年度)の取組は全て継続～

b 教科体育部会

指導方法の工夫と改善

「個に応じた支援」を充実させるため、生徒
の実態や学習内容に応じた、効果的な教具や
学習カードの作成に努めた。教具は、運動に
対する興味・関心を高めたり、恐怖心を取り
除き思い切り運動できるものとなるよう研究
を重ねた。学習カードは、学習過程と個々の
課題を明確にし、自己評価を行いながら、次
のステップに向けて自分自身を高めていくこ
とができるよう工夫した。

- ・1年「リレー遊び」...自作の小型ハードル
- ・6年「ハードル走」...ハードルが怖い子に
対する恐怖心を取り除いた簡易ハードル
- ・4年「育ちゆくわたし」...思春期に近づい
ていることを実感する成長ものさし

c 教科外体育部会



教科外体育を見直し、計画を立て直した。

さまざまな運動や遊びを通して、運動の日常
化と体力向上をねらいとして教科外体育の充
実を図った。体力向上推進委員会を中心に計画
し、すもう体操、マラソン、縄跳び、そして新
体力テストの考察から、課題となる種目を各学
年の実態にあわせて取り入れてきた。

		月	火	水	木	金
1学期	1, 2年	すもう体操	体育館	トラック	外遊び	固定施設
	3, 4年	すもう体操	固定施設	体育館	外遊び	トラック
	5, 6年	すもう体操	トラック	固定施設	外遊び	体育館
2学期	全校	すもう体操	マラソン	投運動	外遊び	マラソン
3学期	全校	すもう体操	なわとび	なわとび	外遊び	なわとび

d 調査・統計部

体育科・生活習慣に関する実態調査

体育科に関する実態調査と生活習慣に関わる実態調査を行い、本校児童の実態の把握に努めた。また、学校保健委員会を開き、歯科医や校医を招いて保護者への調査結果の情報公開と望ましい生活習慣・歯みがき指導などの情報交換の場を設けた。

e 環境整備部

体育的環境の整備

児童のボールを投げて遊ぶ機会を増やし、さらに、授業や休み時間に児童が楽しく使えるために、魅力ある投てき板への改善を図り、塗り替えを行った。また、体育館に「器械運動の技のポイント」を常時掲示できるようにし、児童同士の教え合いや学び合い、相互評価する場合のポイントを指摘する等に活用した。



f 実技研修部

実技研修

講師を招いて器械運動を中心とした実技研修を行い、補助のしかたや主運動につながる補助運動を研修し、教師間の共通理解を深めた。
3年目(平成19年度)
~2年目(平成18年度)の取組は全て継続~

a 研究推進委員会・全体研修会

評価と支援

国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法の改善工夫のための参考資料」をもとに、学習評価計画を作成した。重要ポイントとして
どんなめあてを持って学習したらよいのかを「診断的評価」によって知り その学習が予測通りにうまくいっているかどうか判断するために「形成的評価」を役立たせ 「いつ、何を、どのように」評価していったらよいのか見通しをもつことが大切であることを押さえた。

c 教科外体育部会

げんきくん教室と「遊・友スポー-ツラングちば」

養護教諭による「げんきくん教室」は、運動を敬遠しがちな肥満児童や部活動に参加していない児童に外遊びの機会を与えた。また、いきいきちばっ子健康・体力づくり推進事業「遊・友スポーツラングちば」に積極的に参加し、休み時間にまで活動を広げて行うことができた。

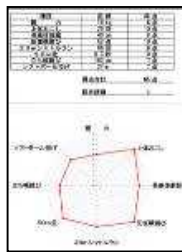
4年目(平成20年度)

~3年目(平成19年度)の取組は全て継続~

g 体力向上推進委員会

体力向上推進だよりの発行

体力向上推進だよりを発行し、新体力テストの結果の考察や家



庭でもできる運動の紹介などの情報公開や家庭への協力を呼びかけた。また、5年分の新体力テストの記録の推移から各学年に応じた課題を把握し対策を考えた。

5・6年目(平成21・22年度)

g 体力向上推進委員会

縦割り外遊びと「笹川運動名人」認定

異学年交流と多様な運動遊びの奨励を目的とし、業間活動の更なる工夫として縦割り活動を取り入れた。また、4種目の運動「なわとび」「マラソン」「鉄棒」「水泳」の種目の検定を設け、合格者には認定書と体育館への名前の掲示を行い、技能習得と目標設定に役立てた。

5. 研究の成果

T・Tによる指導やスモールステップによる学習カード、場の設定を工夫したことにより、一人一人の能力に応じた学習を組み立てることができ、児童の意欲を引き出すことができた。評価計画をもとに評価活動を行ったことにより、個々の進度やそれを受けてどのように支援すべきかが明確になり、技能の向上や教え合い・学び合いの高まりが見られ、主体的な学習態度へとつなげることができた。

子どものめあてを引き出す学習カードを用いたことや、めあてを達成するための場を工夫することで、より個に応じた支援を効果的に行うことができ、児童の学習意欲を高めるとともに、できることの喜びを味わわせることができた。教科外体育の工夫と充実の一環として「遊・友スポーツラングちば」に全校一斉に取り組み、初代年間大賞を受賞し、多くの成果と記録を残し、また、運動の日常化に結びついた。

6. 研究の意義、発展性

今までの授業研究で得た学習資料や開発教材は、学校全体の共有財産となり有効活用される。整備された体育的環境は、児童にとって授業や休み時間にも活用できる教育資料・環境となっている。

本校の実践を、各学校へ公開することにより、体育授業の情報を共有し、より質の高い授業への提案・土台となる。

業前・業間活動の工夫と充実により運動の日常化と体力向上が図られる。また、「体力向上推進だよりの発行は、家庭への運動の奨励や協力が得られる。

本校の特色を生かした教育活動(相撲大会・相撲体操)を継続・展開することで、伝統と歴史を重んじる子どもの態度や強靱な足腰の育成を行うことができる。



校内相撲大会に、貴乃花親方が来校し、相撲体操を視察。